アメリカ留学日記（2）

～新学期の始まり～

早稲田大学理工学部 3 年・University of Oregon に留学中
堀　真知子

いよいよアメリカでの生活がスタートしました。まだまだ慣れないことだらけで失敗もよくしますが、私の面白い体験を、ここ一ヶ月で印象に残った順に書いていこうと思います。ちなみにホストファミリーと同居しています。

1、ホストファミリー

私のホストファミリーはすごく優しい本当にあたたかい家族です。しかし今は慣れたもののやはりここはアメリカなので意思の疎通が本当に大事なのだなと感じました。

私は、University of Oregon のある Eugene の隣のまち Springfield にすんでいます。家族構成は Mother ,Father , Sister です。到着した日、私は英語の conversation のクラスを一回しかとったことがなかったので不安で仕方ありませんでした。日本からのフライト時間は 9 時間。そこからバスにのって 2 時間。しかも日付変更線を通過しているため頭がへんになりそうでした。ホストファミリーの待つバラ園に着きバスの窓から WELCOME TO MACHIKO の文字がみえました。私は嬉しくて、さっきまでの不安は嘘のように、すぐに駆けつけました。家に向かう車の中で何を話したのかは全く覚えていません。きっと緊張しておかしな英語を話していたと思います。

到着した日の午後にすぐスーパーマーケットへ食材を買いに行きました。まず驚くべきことはスーパーの品物の大きさです。そして並べ方もダンボールのままでした。私のためにと見たことのない minuets rice とヨーグルトを買ってもらいました。そしてその日はさっそく夕食の準備がはじまりました。なじみのないものばかりでしたがおいしかったです。そして、次の日は father がラズベリーパイとストロベリーパイを作ってくれました。

そして早速食事の壁にぶつかりました。二週間はジャンクフードを食べ続けていたのですがさすがに耐えられず mother に自分の好き嫌いを白状しました。「なんでいままで言わなかったの？」と言われ遠慮していた、とも言えず笑顔でながしてしまいました。

日本だと「気遣い」は当然のことと認識されていますがアメリカは日本とは違い本当にはっきりとした意思表示をしないと永遠に質問を投げかけてくる国だなと痛感しました。遠慮なんてしていたらこの国でやっていくのは大変です。初めのころ、私はさすが日本人なのか may be ばかりつかっていました。しかしこの表現を頻繁に使いたがるのは日本人ばかりだそうです。私もこの表現はメジャーな言葉だと思っていましたが、まったくの誤解でした。これからもっといろんな言葉の壁にぶつかると思いますがまずは、Yes なのか No なのかということだけはっきりさせておけば意思は通じるな、と痛感しました。

2、大学生活

私は大学の授業が始まるまで、二週間ほど留学生用のオリエンテーションに参加していました。このオリエンテーションによってたくさんのアジア人の友達を得ました。特に先輩から聞いてはいたのですが台湾の子達とはお昼を一緒に食べたりしてすごくなかよくなれた気がします。はじめから現地の人と仲良くしたいとは思っていましたがある程度の語学力がないとローカルのスピードについていけないので英語でアジアの子と話すのはいいことだと思いました。オリエンテーションで改めてわかったことは、早稲田大学の子がすごく多いことです。アジアの中でも日本人留学生が一番多くて本当に驚きました。

この二週間で身についたことは積極的に話しかけていくことの大切さです。特に同じ留学生同士だとそんなに速いスピードの英